

社会・人間・情報プラットフォームプロジェクト

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏井, 高人 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10291/15553 |

5. 学術フロンティア推進事業

社会・人間・情報プラットフォームプロジェクト

夏井 高人

SHIPプロジェクトでは、XMLの技術を応用した社会科学系データベースのプラットフォーム技術の開発を進めている。

2001年度においても、XMLの仕様や技術に関する最新の動向に関する調査研究を継続して進めながら、基本技術の開発及びその特許化等について検討を重ねた。

また、開発中のシステムにおいて実証実験に用いるためのデータとして、大審院判決全部及び法律新聞記事（明治期）を含む構造化文書関連特許公開データの蓄積を進めた。加えて、XMLを応用した法令対訳管理システムの開発のための基礎データとして米国の翻訳等の作業も行った。このほか、将来のWebコンテンツとしての利用を模索するため、オーストラリア（ニューサウスウェールズ州及びタスマニア州）を訪問して、同地における州政府の法情報データベースの運用状況等を現地調査し、また、タイ王国チュラロンコン大学を訪問し、同大学と慶応大学との間でなされている衛星講義システムの運用体制、コンテンツ作成の実情及びシステム構成を調査した。

他方で、2001年度には、データベース用の画像データ及びテキスト・データのフォーマットについて検討を進め、実験モデルを作成した。2002年度は、その一部を明治大学内で公開し、アンケート調査を実施する予定である。

また、2000年度に引き続き、システムをWebに接続するために不可欠なセキュリティの確保に関する検討も重ねた。なお、SHIPプロジェクトのWebページの一部をXML及びXHTMLとする実験を開始した。

SHIPプロジェクトの研究成果は、広く社会還元されることが求められていることから、2001年度においても、シンポジウムを開催し、法情報データベースに関する法的、社会的問題等を多角的に検討している結果を公開すると同時に、XMLの技術面に関する研究成果も報告した。これら、シンポジウム等の概要は、次のとおりである。

（共同シンポジウム）

2001年5月19日、明治大学駿河台校舎において、国際シンポジウムとして、「第4回共同シンポジウム」を開催した。研究テーマは、「法情報データベースの社会的役割」であり、プロジェクト・リーダーである夏井高人（明治大学法学部）、ピーター・マーチン教授（コーネル大学）、グラハム・グリーンリーフ教授（AustLII）及び山本順一教授（図書館情報大学）からの講演及び研究報告がなされた後、指宿信教授（鹿児島大学）の司会によりパネルディスカッションが行われた。

（研究報告）

2000年11月10日に東京で開催された「XMLフォーラム；XML開発者の日」において、プロジェクト・リーダーである夏井高人から、「判決データベースにおける時的要素の機能とXML技術応用の可能性」と題する研究報告がなされた。

（成果物の印刷・配布）

2000年度に開催された第3回共同シンポジウムの日本語版を印刷・配布したほか、2001年度に開催された第4回共同シンポジウムの英語版を印刷し、内外の主要な図書館その他の関連機関に配布した。

このほか、これまでの研究成果は、Webからダウンロード可能なPDFファイル等によって逐次公開してきており、特段の事情がない限り、今後もこの方針を維持することとしたい。